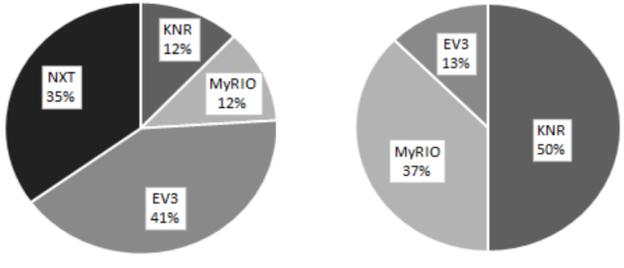


情報電子工学科 学会発表

【発表者について】○は発表者

学会名	第1回ロボット技術教育シンポジウム
演題名	WRO2016ニューデリー大会における自律型ロボットの動向
発表者	○安波 舞[1]・蓮田 裕一[2]・波江野 勉[2]・大森 康司[2] [1]帝京大学工学部情報電子3年 [2]帝京大学工学部1年
内容	主に2015年に開催されたWRO University Categoryと2016年開催のAdvanced Robotics Challengeにおける参加国・地域の状況及びCPUなどの使用機器の特徴などを考察し、ARC競技の今後の展望について言及している。2015年の結果を受け、WRO2016ではKNRが50%と大幅に増え、次いでMyRIO(37%)となり、前年度最も多かったEV3とNXTの使用割合が76%(2015年)から13%(2016年)に激減している。カメラを搭載し、ピンの種類・配置情報を認識することはEV3でも可能ではあるが、使用できるカメラの画素数が少ないので、MyRIOとKNRが多くを占めていることなどを報告している。
関連画像	 <p>(a)2015年大会 WRO上位チームの使用機種割合</p> <p>(b)2016年大会</p>